

患者さまへ

『間質性肺疾患の「急性増悪」に関する前向き観察と診断基準作成の試み』

当院では、国立病院機構（NHO）共同臨床研究として表記研究を実施しています。

1. 研究意義、目的

急性に呼吸困難が悪化した間質性肺疾患において、間質性肺疾患の種類を含む背景因子、間質性肺疾患の悪化要因を含む悪化時の臨床指標と予後の関係を明らかにし、「急性増悪」の新たな診断基準の作成を行うことを目的とします。

2. 研究対象

間質性肺疾患（かんしつせいはいしっかん）とは、肺の骨組みにあたる間質といわれる部分に炎症や線維化（固くなる変化）を生ずる病気全体を指します。患者さまにとっては、間質性肺炎（かんしつせいはいえん）という言葉の方がよく耳にされるかもしれません。間質性肺疾患の患者さまは、しばしば、咳、息切れ、呼吸困難などの症状を訴えられます。

間質性肺疾患の中には、様々な病気が含まれます。原因不明の間質性肺炎を特発性間質性肺炎（とくはつせいかんしつせいはいえん）と呼びます。特発性間質性肺炎の中で最も頻度が高い病気は特発性肺線維症（とくはつせいはいせんいしょう）と呼ばれます。膠原病（こうげんびょう）と呼ばれるリウマチ系疾患に発症する間質性肺炎（膠原病関連間質性肺疾患）、カビや鳥の羽・糞などを吸い込むことで発症する慢性過敏性肺炎（かびんせいはいえん）、石綿を吸入することによって発症する石綿肺（いしわたはい）などは、原因が明らかな間質性肺疾患の代表です。

これらの間質性肺疾患の患者様の中で、1ヶ月以内の急性経過で新たな陰影の出現とともに、呼吸困難が悪化した患者様を対象とします。

3. 研究内容と方法

上記の対象の患者様を登録させていただき、過去の検査データおよび急性に悪化した際に行った問診内容、検査データ、画像情報、治療内容、臨床経過を匿名化したうえでNHO 近畿中央胸部疾患センターに送付し、経過の悪い「急性増悪」症例を診断するための、新たな診断基準を作成します。

4. 個人情報の取り扱い

この研究で取り扱うすべての臨床情報（胸部撮影画像ファイルを含む）は氏名、住所、電話番号、診療番号などの個人情報を含まない形でNHO 近畿中央胸部疾患センターに送付します。したがって、これらの個人情報が外部に漏れる心配はありません。

5. 二次利用について

この研究に用いた臨床情報を匿名のまま、別の研究に利用させていただくことがあります。その場合、新たな計画書を作成し、該当する倫理審査委員会で審査、承認を得て行います。また、その研究についても、本研究同様、改めて情報を公開させていただきます。

6. お問い合わせについて

この研究について、お聞きになりたいことがある場合、より詳細な研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合は、担当医師または下記の連絡先までご連絡ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等お答えできない内容もありますのでご了承ください。この研究の対象となることを希望されない場合も同様にご連絡ください。お申し出のあった患者様のデータにつきましては削除いたします。ただし、学会や学術誌への発表後にご連絡をいただいた場合は、使用の中止はできかねますので、ご了承ください。

研究代表者：新井 徹（NHO 近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター呼吸不全研究部長）

施設研究責任者：柴山 卓夫（NHO 岡山医療センター 呼吸器内科医長）

問い合わせ先 電話 086-294-9911